



横浜市情報・視聴覚教育研究会

コミュニケーション力アップ

研究会長 林 弘之

平成18年1月に、当時の政府が打ち出した「IT 新改革戦略」で、産業界では IT 化が急速に進み、それに伴って教育界でも情報コミュニケーション技術 (ICT) が叫ばれるようになってきました。

小学校では、平成23年度から新しい学習指導要領が全面実施され、それを受けて昨年度から本研究会の運営組織も「授業デザイン部会」と「スキルアップ部会」の2部会に変更しました。授業デザイン部会では、新指導要領の基本的ねらいの一つである「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する。」を受け、各教科目標の達成に向け、言語活動を充実させた授業デザインを研究しています。また、スキルアップ部会では、児童に様々な ICT 等を活用する機会をもたせるために、まず教師のスキルアップを図る研究を中心に取り組んでいます。

会員が共通理解の基に研究を進めるために、年度初めの4月総会では、東京理科大学教授の渡邊均先生から「情報モラル学習の一考察～タブレット PC を使って～」というテーマで講演をしてもらいました。そこでは、情報化時代の行動規範や通信ネットワークの仕組みなどを、詳しく学びました。また、5月の研究会では、放送大学教授の中川一史先生から「コミュニケーション力を高める指導と評価」の講演を受け、次のようなことを教えていただきました。

「21世紀型コミュニケーション力は、主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめることが大切である。また、メディアを適切に活用して伝え合い、深めていくことができる能力を身に付けることも必要である。」

これらの考え方を基に、さらに授業実践や研修・研究を積み重ねながら、本研究会のテーマである「ICT を活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ」を図っていきたくと思っています。

目次

特集記事

研究会長あいさつ	1
授業デザイン部会	2
スキルアップ部会	3
夏季研修報告	4

発行

横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚研究部会
会長 林 弘之

編集

紀要・広報委員
東森 清仁



授業デザイン部会について

授業デザイン部会では「子どもたちの考える力や表現力をつけ、コミュニケーション力が高まる授業づくり」に焦点を当て、教師の授業改善についての研究を進め、部員相互の実践の効果を確認することに取り組んでいます。

これまでの研究の成果として、協働的な学習の場面に ICT を活用することで子どもたちのコミュニケーションがより活発になり、思考力、表現力を高めていく授業デザインができたことが挙げられます。

しかし、コミュニケーションの様子が生かされたように見えても、教師がそのやりとりをしっかりと見取って価値付け、子どもにフィードバックしたり、次の活動に活かしていったりすることができなければ、コミュニケーション力を十分育てていくことはできません。

そこで今年度はさらに研究を焦点化し「学習のなかで子どもの姿を見取り、授業デザインに活かしていける評価」に視点をあて、実践・研究を続けていきます。

ICT を活用して 子どもたちのコミュニケーション力アップ！

説得する 納得する 主張する 伝えあう協働学習を通して……

授業デザイン部会活動経過

4月 定期総会・オリエンテーション

講演会「情報モラル学習のー方法ー
ータブレット PC を使ってー」

5月 合同講演会

「コミュニケーション力を高める指導と評価」

放送大学 中川 一史先生

6月 会員研究

「コミュニケーション力の見取りについて」

～4年理科「水のあたたまり方」～

庄戸小学校 平野 大二郎先生

7月 会員研究

協働学習を円滑にする授業デザイン

～3年社会「発見！わたしたちのまち妙蓮寺」～

港北小学校 近藤 睦先生

「子どもたちの姿からの授業デザイン」

授業デザイン部会 部長 近藤 睦

自分の考えを相手に話すなかで、より自分の主張の輪郭がはっきり見えてくるような気がする……。そんな経験がだれにもあります。それは「わかる瞬間」。

子どもたちが、目的意識、相手意識を明確にもち、やり遂げたいという切実感をもつ課題設定。目を輝かせ夢中に取り組み、友達と一緒に思考し、判断し、力をつけていく。自分たちらしさにこだわったり、細部に及んで検討したりした成果を、多くの人に胸を張って表現する、輝いている姿。

授業を通して子どもたちは、人と生きることを学び、自分の存在価値を感じ、学ぶ喜びを知ります。わたしたち教師はそういう場面を子どもと共有し、その変容を価値づけていくすばらしい役割を担っていると感じます。コミュニケーション力をつけていくことは、子どもたちに生きる自信をつけていきます。

さて、わたしたち教師は、このような姿を求めて、今、目の前の子どもたちに対して何をねらい、どのような活動を仕組んでいくのでしょうか。さらに学習の過程において、子どもたちの思考や表現を的確に見取るには、どのような手法があるでしょうか。子どもたちが迷っているときには、どのタイミングでどのような意図をもって入っていけばよいのでしょうか。これらの課題を解決していくためには、授業デザインを修正しながら、ねらいに沿った次の活動をしていく必要があります。

そこでわたしたちは、子どもの学びにおける①課題の提示②学習環境の整備③学習活動の評価④学習におけるコミュニケーション場面の四つの場面での効果的な ICT 活用について工夫、開発していくことを通して単元全体のデザインを研究しています。

これまでの会員研究では、授業の動画や静止画、発語記録、成果物などから見られる子どもの姿を通して、コミュニケーション力の見取りや、伝え合う姿を引き出す手法などに着目して協議が行われました。さらに12月の公開授業研究会に向けて、このような部会テーマのねらいに沿った提案ができるよう、部員みんなで協働的に授業案を考えていく予定でいます。

みなさん、ともに学び、ともに授業づくりに取り組みませんか？



スキルアップ部会について

子どもたちの ICT 活用能力や活用の幅を広げるためには、まずは教員のスキルアップが必要です。ICT 機器の環境整備や活用方法、情報モラル教育などについて教員自身が理解を深めることが、子どもたちの ICT 活用能力につながります。そして、活用能力や活用の幅を広げることが、結果として子どもたちのコミュニケーション能力につながっていくと思います。

「教員の ICT 活用能力のスキルアップ」を目指し「教員が学校内の情報機器を日常的に活用し、円滑な運用ができる」ことが、子どもたちのコミュニケーション力アップにつながることを目指して、研究を進めていくことにしました。また、各学校で抱えている悩みを共有し、解決できる場にしていきたいとも考えています。

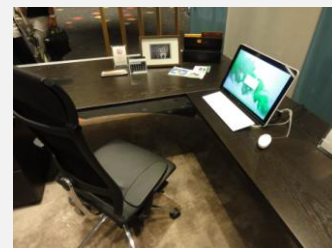
「教員の ICT 活用能力のスキルアップをめざして」

スキルアップ部会 部長 伊藤 裕哉

6月と7月は、教職員のスキルアップを目指した研究を進めました。

6月には、校務システムの運用例や便利な使い方について研究を深めました。今年度よりどの学校でも校務システムを本格的に運用し始めていると思います。しかし、どのように進めていったらいいのかわからない学校も多いと聞きました。そこで、実際どのように運用しているのか具体例をもとに、誰もがわかりやすく便利に使える方法について研究を深めました。その後の情報交換の場では、各校の取り組みや進行状況など、今後の参考になる情報がたくさんありました。7月には、ICT 機器の新たな活用方法について、一人一提案という形で情報を共有しました。誰もが知ってそうで意外と知らない情報をたくさん共有することができ、校務を進める上で参考になる点が多くありました。

今後の予定ですが、情報・視聴覚担当者の一年間の仕事の進め方や情報教育計画の作り方といった基礎講座から、サーバの運用・活用方法や校務システムの本格的な運用の進め方、校内 ICT 研修の進め方、円滑に活用できる情報機器の環境整備など、各校の情報・視聴覚担当者にとって身近な課題から研究していきたいと考えています。



スキルアップ部会活動経過

4月 定期総会・オリエンテーション

講演会「情報モラル学習の一端
ータブレット PC を使ってー」

5月 合同講演会

「コミュニケーション力を高める指導と評価」

放送大学 中川一史先生

6月 会員研究

「校務システムの進め方」

いぶき野小学校 伊藤先生

7月 会員研究

「ICT 機器や教材の新たな活用方法」

いぶき野小学校

伊藤先生・後藤先生・佐々木先生

瀬谷さくら小学校 諏訪先生

市が尾小学校 小串先生

柏尾小学校 高野先生

常盤台小学校 東森先生

夏季研修会報告

「ICT を活用した評価視点獲得研修」
講師 インテル(キャリアリンク)

「手近な機材で教材(番組)づくり」
講師 瀬谷さくら小 諏訪先生
深谷台小 北条先生

「21世紀の教室」体験会
講師 マイクロソフト

「ICT を活用した評価視点獲得研修」

昨年度に引き続き、インテル株式会社から講師を招き、プロジェクト型学習における授業設計と評価・授業運営の方略を学びました。

いくつかの授業モデルについて参加者で意見交換を行いながら、ICT を効果的に活用し、児童・生徒が自ら考える力を育てる「思考支援型」の授業を展開するための工夫や、それに伴った児童・生徒の活動に対する評価のありかたについて学ぶことができました。また、これからの子どもたちに求められる問題解決能力、批判的思考力、コラボレーション・コミュニケーション能力、ICT 活用力など、21世紀型スキルの重要性をあらためて感じることができました。

最後にはインターネットを使つての“Intel Teach Elements”の紹介がありました。

「手近な機材で教材(番組)づくり」

本研究会役員を講師として、デジタルカメラのムービー撮影機能を利用した動画編集についての実技研修会を行いました。はじめに動画を撮影するための基本的なノウハウを学んだあとに、素材となる動画を実際に港の見える丘公園周辺にて撮影を行いました。

午後は WindowsMovieMaker を使つての動画編集にチャレンジしました。ムービーの取り込みの方法から、動画に対するエフェクトのかけ方、テロップの入れ方、BGM や効果音の入れ方などを学びながら、実際にひとりひとりが2～3分のショートムービーを作り、最後にみんなで鑑賞しました。

基礎的な撮影技術から動画編集までを楽しみながら学ぶことができた一日でした。

「21世紀の教室」体験会

マイクロソフト株式会社の品川オフィスにて最先端の技術を利用した学習スタイルについての体験会が行われました。

研修の前半部分では、ひとり1台ずつ Windows8がインストールされたタブレット端末が用意され、新しく採用された「ピクチャーパスワード」(画面上に表示された写真を指でなぞることによる認証方式)や、画面上にタイル形式にアプリケーションやファイル・フォルダが表示される新しいスタート画面の操作方法を学びました。

基本的な操作を学んだあとは参加者が児童・生徒役となり端末とマイクロソフトの授業支援システムを利用した模擬授業に取り組みました。親機でデジタル教科書を操作しながら端末の学習状況をモニターしたり、教師の自作資料を端末に一斉配信し、その資料をもとに話し合いや活動を進めたり、その他にも多くの ICT を利用したこれからの学習形態についての提案がなされました。

模擬授業の後には学習に困難のある児童が ICT 機器を利用した支援により学習効果を上げたことを事例を挙げながら紹介。識字に困難のある児童が音声読み上げ機能を利用した例や、書字に困難がある児童がキーボード入力により文章を作成できるようになった例などを学び、これからの ICT 機器の活用の在り方について広く考えることができました。

最後には品川オフィスツアーを行い、200台の端末による遠距離会議システムや、新しい端末・WindowsSurfaceRT や、「キネクト」による、動作による端末の操作の可能性について学ぶことができました。

研究会からのお知らせ

「メディアワールド」

市情報・視聴覚研究会では、活動の内容を広く知ってもらうために各月の活動の内容を「メディアワールド」という広報誌にまとめ、各学校の情報担当の方に配布しています。

取り組みの内容や活動に興味をもった方はぜひお気軽に研究会に参加していただければと思います。

みんなで、楽しく、充実した学びに取り組んでみませんか。

メディアワールド



定期総会	講演会	部会オリエンテーション
新年度役員選出、研究計画、予算案等が承認されました。	東京理科大学教授・渡邊均先生、助教・東本崇仁先生、九州工業大学准教授・マラット・ザニケエフ先生を講師に行われました。	スキルアップ部会・授業デザイン部会両部会それぞれのオリエンテーションが行われました。各部会長の研究計画をもとに、一年間の分担が行われました。